

## 21018 年度国際連語論学会 5 月例会

日時:2018 年 5 月 12 日(土)16:00~18:00

場所:大東文化会館 K-403

発表者:小路口ゆみ

テーマ:“把”構文における主体について

要旨:中国語における“把”構文は、一般的に客体の位置の移動、状態の変化及び認識の変化を表している(例 1)。それだけではなく、主体の変化を表すこともできる。本発表では、“把”構文が主体の状態の変化及び認識の変化を表すこと(例 2)を分析・考察する。そして、これを証明することを試みる。

- (1) 要是钢条软了一根，你拿回来，把它摔在我脸上！(《骆驼祥子》1)
- (2) 他不觉得这是太多，还是太少；他把思想集中到这三匹身上，虽然还没想妥一定怎么办，可是他渺茫的想到，他的将来全仗着这三个牲口。(《骆驼祥子》3)

例(1)の主体である“你”が動作“摔”によって、客体である“它”を“我脸上”に移動させることを表現しているが、例(2)の主体である“他”が自分の“思想”を他のところから“这三匹身上”に集中したという表現である。例(2)は決して客体的変化ではなく、むしろ主体の変化だといえるだろう。これについて、《骆驼祥子》及び《家》の中の実例を調査・分析する。これによって、さらに“把”構文の意味に対する理解をより一層深めることができることを期待する。